

帝塚山学院幼稚園

2023年度 学校評価報告書

1. めざす幼稚園像

初代学院長庄野貞一が提唱する「力（意思の力、情の力、知の力、躯幹）の教育」を推進するとともに、教育理念の「人として生きる力を育てる一高い志、豊かな感性、他への思いやり」を実践する。

また、「挨拶」「けじめ」「思いやり」といった伝統として受け継がれる教育目標を継承しながらも、グローバル社会を生きるための基礎を育む保育内容、保育環境を整える。

2. 中期目標

(1) エンロールメント・マネジメントの強化

- ①体験型プロジェクト保育の実施
- ②ICT 機器を利用した教育活動の研究
- ③食育活動の実施
- ④SDG s への取り組み
- ⑤表現力・語彙力の向上
- ⑥安全教育の継続
- ⑦運動能力・体力の向上
- ⑧マナー教育の充実

(2) 指導力向上

- ①教員研修・園内研修の実施
- ②安全教育・救命技能の向上
- ③人事考課制度・評価の実施
- ④保育マネジメントの充実

(3) 保育環境の充実

- ①保育環境
- ②園庭環境

【保護者アンケート結果と分析】 2024年2月実施アンケート

保護者アンケートの結果と分析（2024年2月実施分）

- ・ 教育方針や保育内容に関する項目は、高い評価を得ている。特に、設問「園児の心が動く、多種多様な体験ができるような保育を実践している」では、96.8%が「十分に達成している」及び「達成している」と回答している。これは、保護者から挨拶や基本的マナーを大切にされた保育に共感を得るだけでなく、本園の魅力である「体験」を通じた保育について高い評価を得ていると考えられる。
- ・ 次に保育内容では、食育活動については引き続き高評価が得られた。本年度は、年中組は「小麦」、年長組は「米」について年間を通じて取り組むことでより親しみを感じ、食への関心や興味の拡大につながったと考えられる。また、お箸の持ち方についても園での正しい持ち方の指導により、家庭での意識が高まったと回答された。一方、外国語プログラムについては否定的な評価ではないものの、大きく改善には至らなかった。引き続き、提携先と連携を図っていきたい。
- ・ 教育環境の項目では、「子どもの様子や保育活動を、Instagramや教員ブログなどを通してできるだけ分かりやすく発信している」という設問が大きく改善した。これまで不定期に更新していたブログを本年度から3学年とも毎日配信、Instagramもリールを利用しリアルタイムで発信したことで、行事だけでなく日々の園生活の様子を身近に知ることができ、評価につながったと考えられる。また、園舎や園庭、安全・衛生管理面については、昨年度同様に肯定的な評価であった。

【学校関係者評価委員会からの意見】

【学校評価に関して】

2023年度は新型コロナウイルスが落ち着きようやく本来と同様に近い行事などが開催出来ました。そういった中で「園児の心が動く、多種多様な体験ができるような保育を実践している」など教育方針や保育内容に関する項目が高い評価を得ていることは、先生方の日々の取り組みが子どもたちを通じ保護者にも伝わっているという事で、とても素晴らしいことだと思います。そういった先生方の子どもたちに対する愛情や取り組みが家庭での取り組みに力を入れているという家庭が多くなった要因でもありそれも素晴らしいことだと思います。

【保護者による学校評価に関して】

アンケート評価におけるほとんどの項目で高い評価を得ており、保護者による幼稚園の評価はとても高いと思います。今年度は特に保育補助の先生の増員やInstagramなどを活用し、日々の園での生活を知ることが出来様々な高評価につながったのだと思われます。

中期的目標 1. エンロールメント・マネジメントの強化					
今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	達成度 (%)	自己評価	課題と改善策
(1) 教育の質の保証 (教育の質の保証) ① 体験型プロジェクト保育の実施	① 体験型プロジェクト保育の実施 ・活動中に就学に向けた準備を意識する。 ◆生活する力 ◆かかわる力 ◆学ぶ力	年中：小麦プロジェクトを実施 年長：探そう 日本のキラキラプロジェクト実施	90%	年中・年長ともに豊富な体験を通し就学までに必要とされる左記に挙げる3つの力を身に付けるよう意識した保育が出来た。	・個々の特性により習得率に差がある。
② ICT機器を利用した教育活動の研究。	②ICT 機器を利用した分かりやすい保育を実施。	②具体的実践活動の発表	75%	先生により利用率に差がある。	活用方法を共有する。
③食育活動の実施	③テーマ：「嫌いを克服」をもとに食育活動を実施	③野菜を育てる	90%	90%の保護者が職に興味を持つようになったと回答。	家庭の努力も必要。
④SDG s への取り組み	④テーマ：「自分たちのできることはなんだろう？」	④年間を通しての取り組みを検証。	70%	△ヘチマの収穫が思わしくなかった。 ○ダンポストを使って「燃えるゴミ・燃えないゴミ」を体験。ごみの分別も積極的になった。	
⑤表現力・語彙力の向上 ・絵本の扉リニューアル実施	⑤・絵本の扉の活用 ・絵本の読み聞かせ年間「150冊」実施 ・年長、年中音読活動を実施	⑤ ・読み聞かせ実施結果 ・音読の具体的活動結果	100%	読み聞かせは毎日実践。年中夏休みから音読の宿題。年中3学期には、読めるように成長した。 ★絵本シアターの活用	・宿題の結果を発表することで、保護者の意識が高まる。

中期的目標 1. エンロールメント・マネジメントの強化					
今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	達成度 (%)	自己評価	課題と改善策
⑥安全教育の継続	⑥安全教育の継続 ・災害時の単独避難行動教育の充実 ・緊急地震速報受信システム活用 ・避難防災訓練 年間5回実施 ・園児と共に園生活での危険な行動や場所を確認。	【避難訓練】 年2回 5月・11月実施 【防災訓練】 年3回 6月・9月・1月実施 【点検】 1学期・2学期に実施	100%	・防災教育、安全教育は計画通り実施できた。 ・通報装置の設置完了 ・危険な地場所、安全教育を実施	
⑦運動能力・体力の向上	⑦運動能力・体力の向上 ・「縄跳び」への取り組み ・戸外遊び時間の確保と充実 ・年長：ドッジボール	【目標実施回数】 ・総合遊具の活用 ・縄跳びチャレンジ	100%	朝の戸外遊びの時間を十分にとることが出来ている。特に水曜日は長時間遊べるよう登園した園児から遊ぶように年度途中から変更。 【お箸】 年少：43% 年中：73% 年長：89% 【鉛筆】 年少：92% 年中：91% 年長：94% 【ハサミ】 年少：98% 年中：91% 年長：98%	
⑧マナー教育の充実	⑧マナー教育の充実 ・挨拶、お礼が素直に言える ・年長児は敬語を意識する ・お箸検定の実施 ・鉛筆検定の実施(年少) ・はさみ検定の実施(年少)	【お箸を正しく使える】 年少:60% 年中:75% 年長:100% 【鉛筆を正しく持つ】 年少:70% 年中・長:100% 【ハサミを使う】 年少:85% 年中・長:100%			

中期的目標 1. エンロールメント・マネジメントの強化					
今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	達成度 (%)	自己評価	課題と改善策
(2) 指導力向上					
①教員研修・園内研修の実施	①・外部研修への参加 ・理論と実践を繋ぐ研修会を実施 ・2024年度 ECEQ 参加のための情報収集を行う。		80%	・各先生方は計画的に外部研修に参加していた。 ・園内研修 *「NHK 代16代うたのおねいさん」による歌唱指導 *絵画制作研修 えむスタジオ	
②くぼた脳研の活用	②・くぼたのうけんの研修会に参加し理解を深める ・くぼたのうけん教室見学		50%	・リモートでの研修に参加できた。	
③安全教育・救命技能の向上	③普通救命講習を受講		100%	計画通り全教員が講習を受講した。	
④人事考課制度、評価の実施	④・個々の教員の役割や目標を明確に伝える。 ・目標達成のための具体的行動を確認する。 ・自己点検シートの活用	④各教員との面談実施により確認。	100%	各教員の役割や目標を話し合い、今後の課題も、共有することが出来た。 また、頑張ったことや出来なかったと感じている事柄についても詳しくヒアリングすることが出来た。	

中期的目標 1. エンロールメント・マネジメントの強化					
今年度の重点目標	具体的な取組	評価指標	達成度 (%)	自己評価	課題と改善策
⑤担任ローテーションの実施	⑤担任ローテーションの実施のための人材育成と確保。		80%	人員の確保はできた。今後経験を積み、活躍できるよう育成が必要。	
⑥保育マネジメントの充実	⑥【園長、副園長、担任間で】 ・目標、目的を明確に定め、共有する。 ・目標、目的を達成するための手段や方法を助言する。 ・組織としての目標に対して、個人の目標や役割を明確にする。		100%	目標管理について、各教員に明確に伝えることが出来た。 また、各先生方の反省点や目標についても確認することが出来た。	
(3) 保育環境の充実					
①保育室環境 ・老朽化施設の改修	①保育室床面張替え		100%	①保育室・廊下の床面研磨塗装を実施。	
②園庭環境 ・冒険山改修工事			50%	②新たに大型遊具の腐食が進行。2024年度改修予定。	